

ドロップ平成 28 年度事業計画

1. 方針

利用者の個別のニーズに応え、地域での生活がより豊かなものになる様、支援を行う。

2. 目標と支援内容

① GH の利用者の余暇支援を充実させる。

ア 利用者の希望を基に、担当職員と相談をしながら、移動支援を実施する。

イ ドロップ企画の余暇外出を実施し、余暇の幅を広げ、また、利用者同士の交流を図る。

大人数でのバスハイクや旅行以外にも、利用者が様々な体験を出来る様、少人数での外出や旅行なども実施する。バスハイクや旅行については、車椅子の利用者が参加し易い方法も考えてゆきたい。

余暇外出の予定は以下の通り。

5月 GW 宿泊旅行（南房総、1泊2日）

6月 ビール工場でバーベQ

7月 バスハイク

8月 甲子園旅行（1泊2日）

10月 バスハイク

11月 海外旅行（3泊4日）

12月 都内ホテルでランチ

12～1月 正月旅行（2泊3日）

3月 バスハイク

ウ 手芸クラブ（月2回）、個人の手芸教室を開催する。

～手芸クラブ

利用者の希望を聞き、季節の行事なども意識しながら、偏りが無いよう色々な手法でのプログラムを提供する。また、さくらほりきりの手作り作品展に出展し、鑑賞外出を行う。（10月）

～手芸教室

個人の手芸教室を行い、その人に合った「もの作りの楽しさ」が味わえるようなプログラムを提供する。また、さくらほりきりの手作り作品展に出展し、鑑賞外出を行う。（5月）

エ 公文教室へ参加する。

～個人学習会や添削指導を行い、脳の活性化を図る教材を提供する。

- ② 在宅の利用者及び高齢利用者のニーズに合わせた支援を拡充する。
余暇支援のみならず、通学通所通院同行、入浴介助、家事援助、見守りなど、在宅ならではのニーズに応じてゆく。
また高齢利用者特有のニーズにも柔軟に対応する。
- ③ ヘルパーの質の向上
 - ア 必要な研修に参加し、援助技術を向上させる。特に、全身性障害者ガイドヘルパー研修をドロップの職員は全員受講する。
 - イ 支援報告書などから課題を見つけ、ヘルパー間の情報交換を密にするなどして解決方法を探り、次の支援に確実に活かしてゆく意識を持つ。
 - ウ ファイルマネージャーを活用し、支援報告書を誰でも閲覧し易くする事でGH職員と情報を共有し支援に活かせるようにする。
 - エ 支援力向上を主な目的としたGHスタッフのヘルパー兼務を引き続き行う。
 - オ ガイドヘルプのマニュアルを作成する。
 - カ 引継ぎミスを防ぐ為、引継ぎは基本、書面かメールで行う様にする。
- ④ 会議の開催
ドロップ会議を月1回開催する。また、その他に、ヘルパーミーティングも適宜行う。